

桜 生 工

2013 日本大学生産工学部校友会誌

Vol.43 CONTENTS

ごあいさつ

生産工学部校友会会長 高野 和雄 — 2

生産工学部学部長 松井 勇 — 2

インタビュー — 3

新部会・新代議員

平成 25 年度代議員総会 — 6

工科系校友会連絡会・

工科系校友会支部長会 — 7

第8回日進会ゴルフコンペ — 7

母校を訪ねる会（予告） — 8

就職相談会（予告） — 8

OB 紹介

鹿島建設株式会社 芳賀 達雄 — 9

海保 幸正 — 10

日本特殊塗装株式会社 廣瀬 茂雄 — 11

学科ニュース — 12

箱根駅伝 — 16



生産工学部校友会会長

高野 和雄

校友の皆様におかれましては、益々御清栄そして、御健勝の趣、心より御慶び申し上げます。

2年前の9月に開催された日本大学理事会において、理事に任命されると共に、日本大学校友会スポーツ振興特別委員会委員長を拝命し、日々精励致しておりますことを校友の皆様方に御報告申し上げますと共に、日頃からの御協力に対し深く感謝申し上げます。

昨年迎えた、生産工学部創設60周年、6年後に迎えます、日本大学創立130周年。これらの慶事に際し、校友の皆様方に募金の御協力を御依頼申し上げます。どうか御協力の程、宜しく御願ひ申し上げます。

また、毎年1月2日・3日に行われる箱根駅伝は勿論のこと、日本大学のスポーツ関連の部活動に対して深く御理解下さることと御協力そして熱い応援を賜わりたく重ねて御願ひ申し上げます。

生産工学部創設60周年記念式典は、昨年10月に挙行され、厳かに執り行われました。創設60周年に伴い、新学科（環境安全工学科、創生デザイン学科）棟（40号館）が2月に竣工しました。そして、3月25日の卒業式には、新しい2学科から卒業生が誕生し、社会へ、大学院へと巣立って行きました。新学科卒業生が構成する新部会の誕生の瞬間でもあります。今回の桜生工では、特集インタビューとして、新しい2部会の代議員3名の意見や想いを聞かせてもらいました。大変フレッシュですが、既存部会の先輩諸氏の介添えが必要でもあります。どうか御協力下さいますよう御願ひ申し上げます。

種々の校友会活動を通して母校の発展に尽力致す所存でありますので、今後共、倍旧の御指導、御支援下さいますよう、心より御願ひ申し上げます。



日本大学生産工学部長
生産工学部校友会名誉会長

松井 勇

校友の皆様におかれましては、益々御健勝で御活躍のことと、心より御慶び申し上げます。

昨年ホテルニューオータニ幕張に於いて挙行された「日本大学生産工学部創設60周年記念式典及び祝賀会」そして本年2月に竣工式を迎えた「創設60周年記念・新学科棟（40号館）」と記念すべき慶事が無事執り行われました。

現在、生産工学部9学科の在籍者数は、6790名、大学院博士前期課程（修士）7専攻の在籍者数は301名、博士後期課程（博士）7専攻の在籍者数は22名であります。また、本年度の入学者は学部9学科で1633名、大学院博士前期課程7専攻で172名、博士後期課程で6名であります。

一昨年、昨年と海外の大学〔韓国：全南大学、校工科大学、韓国：慶尚大学校工科大学、中華民国（台湾）：中国科技大学〕との学術交流の提携・調印を行うことができました。

特に、中国科技大学とは、マネジメント工学科と建築工学科において学科レベルの学術交流が行われると共に、7月には中国科技大学の学生約30名が本学を訪問し交流を行いました。また、9月には大学院の生産実習（インターンシップ）で、本学の大学院生8名が中国科技大学に滞在し成果を上げてまいりました。

生産工学部校友会には、台湾支部があります。台湾集集大地震の際の現状及び復興のための視察団の派遣を含め、交流が続いていると聞いておりますが、この機会をきっかけとして更に種々の交流が出来るのでは、と期待しているところです。

更なる生産工学部の発展及び海外との交流のために、校友会・卒業生の皆様の倍旧の御理解、御支援、御協力を賜わりたく、心より御願ひ申し上げます。



インタビュー

左上から、南澤宏明 校友会事務局委員長
大澤慶吉 校友会広報委員長
川岸梅和教授（創生デザイン学科）後見人
左下から、創生デザイン部会：
竹田怜平君（現大学院数理情報工学専攻 1 年）
環境安全部会：
前田拓海君（現大学院土木工学専攻 1 年）
高田卓志君（現大学院土木工学専攻 1 年）

本年 3 月 25 日、環境安全工学科と創生デザイン学科の初めての卒業生が生まれました。

6 月 15 日に開催された校友会代議員総会に於いて、正式に環境安全部会と創生デザイン部会が承認され新部会として発足致しました。

今回は、新部会・新代議員の代表として、環境安全部会から高田卓志君（現大学院土木工学専攻 1 年）、前田拓海君（現大学院土木工学専攻 1 年）、創生デザイン部会から竹田怜平君（現大学院数理情報工学専攻 1 年）にお集まりいただき、「校友会の印象」「校友会に望むコト」等々についてインタビューさせていただきました。聞き手は、大澤慶吉生産工学部校友会広報委員長、南澤宏明事務局委員長、河原和人同副会長（マネジメント部会長）。そして、新部会の後見人になられた保坂成司准教授（環境安全工学科）、川岸梅和教授（創生デザイン学科）にも参加していただきました。

〈平成 25 年 9 月 9 日、於：新学科棟
（40 号館）2 階会議室〉（以下、敬称略）

司会：本日はお忙しい所、お時間をいただき有難うございました。この度は新代議員に選任されおめでとうございました。

高田・前田・竹田：有難うございます。3 月の新代議員を対象にした説明会、6 月の代議員総会と懇親会に参加させていただいたので、あまり実感が無いという所が本当の所です。

司会：学部学生時代に持っていた校友会の印象はどのようでしたか。

高田：固いイメージでした。

前田：年齢の差を感じます。

竹田：大先輩ばかりですね。

司会：総会の懇親会の後、2 次会に連れて行ってもらったそうですね。

高田・前田：そうなんです。2 次会では先輩達との年齢差は話の内容によってはすぐに解消し、とても楽しく過ごせました。

司会：どんな話をされたんですか。

高田・前田：やはり学生時代の話が多かったです。

司会：我々の学生時代は・・・という話ですか。

高田：そうですね。当時のキャンパスの話、大久保のまちの話、アルバイトの話、遊びの話、友達の話など盛りだくさんの内容でした。

司会：先輩達の話聞いて気付いた点は。

前田：周辺の環境や持ち物は変わっても、学生時代の心情は今と余り変わらないという点でした。

竹田：心情だけでなく、日々の挨拶や礼儀・作法など、忘れがちなことを先輩達から気付かされることがあります。

司会：在学生に校友会の活動内容をわかってもらうために校友会はどのような働きかけが必要だと思いますか。



創生デザイン部会 竹田怜平君

竹田：代議員総会や懇親会に在学生の代表を招待して理解を深めてもらうのは如何でしょうか。

司会：良いアイデアですね。

高田：生産実習や就職の相談にも乗ってほしいと思います。

司会：多少の動きは校友会にもありますが、在学生に周知されていないようです。

前田：知りませんでした。私達は大学院に進学しましたので、今年から来年にかけて就職のための動きをしなければなりません。是非共宜しくお願い致します。



環境安全部会 前田拓海君

司会：学部の就職委員会とも連携しながら校友会活動として積極的に行う必要がありますね。それ以外に各部会では桜泉祭、謝恩会、関連するサークル・クラブ等への援助を行っています。

高田・前田・竹田：そうなんですか。

司会：新部会は既存部会に比べ助成額が少ないので潤沢ではないのが実状ですが、有意義に使用していただき、効果を上げていただきたいと思います。



環境安全部会 高田卓志君

竹田：在学中、あるプロジェクトを行っていた時、「こんな人紹介してほしい」「こんなものが欲しい」と切に思ったことがありました。これから仕事に就いても同じ思いにかられることがあると思います。「そんな時の相談場所として校友会が機能してくれたらな」と思います。

司会：そうですね。「人と人の関係づくり」ですね。

前田：人と人の関係づくりのための「名刺交換会」が年に2〜3回あれば良いと思うのですが・・・

高田：お金をかけない方法で人間関係が築ければ最高です。

司会：校友会の良さは、社会における日大人の繋がりと親しみを感じる雰囲気です。

高田・前田・竹田：親しみを感じる雰囲気づくりに微力ですが寄与できればと思います。

司会：更なる校友会のネットワークづくりは如何ですか。

高田・前田・竹田：学生時代の部活や現在の職域の関係を越えた「人と人の繋がり」「人と活動の繋がり」が今後のネットワークづくりのキーに成ると思います。

司会：将来「こんな事をやりたい」時に、「人が集まり」「知恵を出し合い」「方法論を議論し」「具体的な方策を試みる」ために校友会の有為なネットワークが有効に機能すれば・・・と思います。

高田・前田・竹田：いつの場合でも、コミュニケーションがベースになるのですね。

司会：校友達のコミュニケーションを形成することに、校友会の存在意義があるといっても過言ではありませんね。

高田・前田・竹田：いろいろな場面で、もっとOBを頼っても良いのですね。

司会：その通りです。人と人との関係性をベースにした校友会での活動を、あなたがたを代表とする新代議員の人達に大いに期待しています。

高田・前田・竹田：できるだけ頑張りますので、今後共宜しくお願い申し上げます。

司会：本日は、貴重で有意義なお話やアイデアを有難うございました。

校友子女入学試験

■出願資格：次の①、②および③の要件を満たす者。

①大学入学資格を有し、本学への入学を第一希望とする者で、次の(ア)～(オ)のいずれかに該当する校友の子女(2親等内直系血族：受験者本人の祖父母、父母、兄弟、姉妹)である者。

(ア)以下に示す、学校法人日本大学寄附行為施行規則第8条に規定する「学校法人日本大学が設置する学校」を卒業または修了した者。

学校法人日本大学が設置する学校：●日本法律学校 ●高等工学校及び工業専門学校 ●東洋歯科医学校及び歯科医学校 ●東京獣医学校 ●専門学校令による専門学校、専門部、高等師範部、高等専攻科及び師範専修科 ●東京高等獣医学校及び東京獣医畜産専門学校 ●専門学校令による大学 ●大学令による大学及び予科、大学院及び選科 ●学校教育法(新学制)による大学、大学院及び短期大学

(イ)日本大学寄附行為施行規則第9条に定める推薦校友。

(ウ)学校法人日本大学が設置する学校に勤務を有する専任教職員または専任教職員であった者。

(エ)学校法人日本大学の役員または役員であった者。

(オ)学校法人日本大学の特別附属・準付属校を設置する法人に勤務を有する専任教職員または専任教職員であった者。ただし、特別附属・準付属校を設置する法人は、平成22年4月1日現在のものとす。

②生産工学部への入学を第一希望とする者。

③合格した場合、本学部に入学することを確約できる者。



左から、南澤宏明 校友会事務局委員長

創生デザイン部会：竹田怜平君(現大学院数理情報工学専攻1年)

環境安全部会：前田拓海君(現大学院土木工学専攻1年)、高田卓志君(現大学院土木工学専攻1年)

大澤慶吉 校友会広報委員長、後見人：川岸梅和教授(創生デザイン学科)、保坂成司准教授(環境安全工学科)

平成25年度 生産工学部校友会代議員総会

生産工学部校友会の代議員総会が6月15日（土）市川グランドホテルで行われました。総会には200名の校友が出席し開会、すべての議案が承認されました。

懇親会では田中英壽理事長をはじめ多数のご来賓を迎え、和やかな会が開催されました。

事業報告 平成24年度

会員の状況(平成25年3月31日現在) 正会員77,359名 学生会員6,904名

● 車業關係

申込日	内 容
24. 4. 1	平成 24 年度入学生に記念品を贈る
24. 4. 29	島評集会
24. 6. 7	島人民コンテストへ参加費を贈る
24. 6. 25	平成 24 年度代議選助成金
24. 8. 25	工務部入学生祝賀会
24. 9. 18	生涯学習部 60 周年記念事業寄付金を贈る
24. 11. 1	探検隊、留学生研修旅行補助金を贈る
24. 11. 3	「母校を巡る会」へ協賛
24. 11. 3	経理課評議会開催
24. 11. 4	第 5 回国元発還金（※）DEKOB2012へ奨助金を贈る
24. 11. 9	生涯学習部 生産実習、就職支援委員会へ協賛
24. 11. 9	「探検」2012 Vol. 42 発行
25. 1. 28	平島アイデアコンペ優勝賞状を贈る
25. 3. 1	新代議員説明会
25. 3. 22	平成 26 年度卒業生（18 名）に校友会費を贈る
25. 3. 29	キヤンパスフェスティバル 2013 発行

● 會議關係

年月日	審議名	内 容
24. 4. 12	計画・監査委員会	23年度決算報告書のまとめ
24. 4. 26	計画・監査委員会	24年度予算概算、24年度事業計画 協議化推進の取組方針について
24. 5. 10	広報委員会	広報について
24. 5. 31	特別戦略委員会	24年度目標となる風成造りの事前関係構築について 生態系賞、挑戦支援について
24. 5. 34	ボランティア委員会	ボランティアについて
24. 5. 37	運営協議会	23年度予算案、24年度予算案、総会について
24. 5. 35	総務委員会	24年度予算案について
24. 5. 6	委員会	23年度決算案、24年度予算案、総会について
24. 5. 27	総務委員会	23年度決算案、24年度予算案、総会について
24. 7. 20	企画委員会	挑戦支援について
24. 7. 31	運営協議会	母校を語る会について
24. 8. 26	企画委員会	関係構築について
24. 10. 13	企画・ボランティア委員会	関係構築の取組方針について
24. 10. 18	監査委員会	上場企業の評価について
24. 10. 18	総代会	母校を語る会、挑戦支援部会について 関係構築の報告
24. 11. 15	運営協議会	24年度決算案について
24. 12. 4	総務委員会	24年度決算案について
23. 1. 24	運営協議会	新年度、恒久賞賞、新入議員の選出について
23. 2. 23	総代会	新入議員の選出、恒久賞賞について
23. 3. 1	新年度決算説明会	恒久賞の概要
23. 3. 27	運営協議会	新入議員について

● 對外關係

[illegible]

平成25年度 日本大学生産工学部 校
代議員総会 懇親会



ご挨拶される 田中英嘉理事長



代議員總會

収支報告 平成24年度

經常收支計算書

自平成24年4月1日 至平成25年3月31日

收支計算の概

(▽:減算/単位:円)

収入の部		平成 24 年度 実績	平成 24 年度 予算	差 額	備 考
大 目 録	小 目 録				
普通歳入	税金収入	50,000	3,284	19	46,715
	雑収入	56,000	3,248		46,752
社会保険収入	社会保険収入	41,000,000	41,000,000	1	1,334,000
	社会保険収入	40,000,000	41,334,000		1,334,000
公営収入	公営収入	1,500,000	225,000		25,000
	公営収入	900,000	375,000		25,000
	公営収入	1,000,000	1,200,211		30,211
	公営収入	10,000	8,436		1,564
	公営収入	42,528,042	42,528,042		31,775
特別歳入	特別歳入	42,528,042	42,528,042		0
特別歳入	特別歳入	42,528,042	42,528,042		0
収入の部	収入の部	84,078,042	85,648,051	1,632,459	

支出の部

支出科目		平成24年度 実績	平成24年度 予算	差額	備 考
外債費		3,900,000	3,550,000	△ 350,000	
	代償借入金費支出	2,300,000	2,310,288	△ 10,288	代償借入金費
	借入金費支出	800,000	700,544	△ 99,456	借入金費、貸付金利息
	利息支出	600,000	560,000	△ 40,000	借入金費、貸付金利息
事業費		5,000,000	4,122,463	△ 877,537	
	給与手当支出	2,400,000	2,400,000	0	給与、手当、アルバイト
	交通費支出	600,000	619,680	△ 19,680	交通費、出張費
	旅費支出	500,000	520,361	△ 20,361	旅費、出張費
	印刷費支出	500,000	100,000	△ 399,999	入管庁内、年報費
	資料費支出	100,000	31,345	△ 68,655	リーフレット
	会議費支出	400,000	345,295	△ 54,705	経理事務
	委託費支出	400,000	400,000	0	
事業費		134,700,000	134,018,917	△ 681,083	
	北海道庁支出	600,000	178,710	△ 421,290	道庁委託費
	道庁委託費	2,300,000	2,315,430	△ 15,430	合併協議会、建設科
	新幹線費	300,000	245,882	△ 54,118	道庁委託費
	道庁委託費	800,000	612,225	△ 187,775	道庁委託費
	道庁委託費	1,000,000	1,096,450	△ 96,450	道庁委託費
	道庁委託費	4,000,000	4,200,000	△ 200,000	道庁委託費
	道庁委託費	3,000,000	2,962,530	△ 37,470	道庁委託費
	道庁委託費	22,000,000	22,050,544	△ 50,544	道庁委託費
事業費		4,700,000	3,587,347	△ 1,112,653	
	北海道庁支出	2,500,000	2,250,000	△ 250,000	道庁委託費
	道庁委託費	1,000,000	805,665	△ 194,335	道庁委託費
	道庁委託費	900,000	203,004	△ 696,996	道庁委託費
	道庁委託費	600,000	884,711	△ 284,711	道庁委託費
基金増立金		2,000,000	2,003,248	△ 3,248	
	基金増立金	2,000,000	2,003,248	△ 3,248	平成14年度13年度繰越金増立金
繰越金		1,200,000	1,800,450	△ 1,599,450	
	繰越金	1,000,000	800,420	△ 199,580	繰越金、大野市事務
決算繰越金		37,700,420	36,990,686	△ 709,734	
	決算繰越金	37,700,420	36,990,686	△ 709,734	
	決算繰越金	84,079,452	85,460,601	△ 1,452,599	

工科系校友会連絡会・工科系校友会支部長会

第31回日本大学工科系校友会連絡会、及び第16回日本大学工科系校友会支部長会が、平成25年8月31日（土）、薬学部8号館2階で開催されました。

4学部校友会幹事と北海道から九州までの各支部長が参会され、各支部の現状報告等がなされました。

懇親会は2階多目的ホールで行われ、来賓

として松井勇生産工学部長、滝戸俊夫理工学部長、出村克宣工学部長、草間貞薬学部長、石井進常務理事（生産工学部校友会相談役）、佐々木修一生産工学部事務局長、三ツ井直紀工学部事務局長、塚本一道薬学部事務局長をお迎えし、和やかな祝宴となりました。



第8回日進会（教職員・校友会合同）ゴルフコンペ

平成25年10月4日（金）〈日大創立記念日〉、大栄カントリークラブに於いて、生産工学部教職員と校友会幹事等で合同ゴルフコンペを16組で開催致しました。

競技方法は18ホール新リペア方式・上限なし（同ネットは年長者上位）で行われ、個人戦優勝は内山芳弘さん（生産事務局）、

準優勝は片桐一之さん（生産事務局）、3位は清水一義さん（生産事務局）でした。団体戦は生産工学部教職員（グリーン会）チームが優勝し、和やかに表彰式と祝宴が催されました。



桜泉祭・母校を訪ねる会のご案内

生産工学部では毎年、桜泉祭（旧泉祭）の時期（今年度は11月3日～11月4日）に「母校を訪ねる会」を開催し、皆様をご招待申し上げております。

今年度は卒業50年（昭和38年卒業）、卒業40年（昭和48年卒業）、30年（昭和58年卒業）、20年（平成5年卒業）及び10年（平成15年卒業）を経た皆様を対象に、下記のように第25回「母校を訪ねる会」を催したく存じます。

なにかとご多端の折とは存じますが、是非御家族共々ご来場賜り、在学当時の先生方を交えた教職員との懇談やお互いの旧交を温めるとともに、後輩の主催する

桜泉祭を見学され、ご指導くだされば有り難く存じます。

尚、ご招待申し上げる卒業生以外の皆様でもご都合がよろしければ、お互いお誘い合わせの上、お気軽にご来校くださることを心よりお待ちしております。

平成25年11月3日（日）

受付：14時00分～15時50分（1号館1階正面入口）

懇親会：16時00分～17時30分（39号館2階食堂）

学内見学：随時－桜泉祭、研究室等を見学・訪問してください。

桜泉祭：9時00分～17時30分



ご挨拶する石井進 生産校友会相談役



懇談会

就職相談会の開催

校友会主催の就職懇談会が桜泉祭開催中の11月3日（日）10時より16時まで、39号館1階ギャラリーにおいて開催されます。

現在、生産工学部の学生達も厳しい就職状況となっております。そこで、我々卒業生でも何かお役に立てればと思い就職支援活動として「就職相談会」を開催する

ことになりました。

また、学生の就職に対する不安や心配事の相談、あるいは、OBの就職体験談や採用側としてのアドバイスをさせていただきたいと思っております。在校生全員が対象ですので、是非ご参加下さい。



OB紹介

鹿島建設(株)関東支店長 芳賀達雄 (建築工学科 昭和46年卒業)



昭和46年(1971)
建築工学科を卒業後42
年間、64歳になりました
が現役として総合建
設業 鹿島建設株式会社
関東支店長として従事
しております。

日本大学生産工学部
におかれましては、産業界に最も近い工学
系の学部として、創設60周年を迎え、産業
界に多大なる貢献を続けており、一人の卒
業生として母校の発展は大変嬉しく、頼も
しく感じております。また、私自身も未だ
に母校の恩恵(先輩・部下・同級・同窓)
に頼っている毎日であり感謝しているところ
であります。

さて、産業界の低迷が永く続いておりま
すが、先の参議院選挙も終わり、自民・
公明の圧勝となりいよいよ「アベノミク
ス」の本格稼働となることに産業界は大
いに期待するところであります。

私共の建設業界もまだまだ先の見えな
い状況に迷い込んでおりますが、我々の
業態は決してこのまま消えてしまうもの
ではありません。人間(人類)が生存し
ていく限り、衣・食・住は成熟した現代
の人間社会では、もはや水と酸素と同様
な必要不可欠な生存条件であり、「住
(シェルター)」をつかさどる建設業は
人類の進化と共に高度化・多様化してき
ており永遠に不滅な業態であります。

終わりのない不滅な業態であるが由に、
好不況の波形(サインカーブ)をたどっ
て時代軸(時間軸)をX方向に向かっ
て時が流れているのであらうと思ってお
ります。現在が(一)領域ならば必ず
(十)領域に戻ってくる時代がくるもの
なのです。

近年、若者が建設業を敬遠する傾向が建
設界から始まり教育界(大学)にも波及
していると聞いておりますが、在校生諸

君は悲観することなく必ず脚光が当たる時
代=諸君の活躍の時代が来ることを確信し
て自己研鑽・向上に励んでいただきたいと
思います。

私の信条は「努力の中に運(ウン)があ
る。行動することで運(ツキ)がくる。」
であり、座して待っていても何も解決しな
いし、幸運もやってこないことを私の節目・
節目の人生経験の中で実感しております。
一人一人の目標(志)に向かって努
力を続けていただきたいと祈念しており
ます。

日本大学生産工学部の産業界における引
続きの貢献とこれからの創設100周年に向
けた教職員様並びに在校生の皆様のご活
躍に期待しております。



OB紹介

統計学科 (中村研) 昭和49年卒業 海保 幸正

「大学時代とその後の39年」

統計学科は約40年前まであった学科です。現在は数理情報工学科と名称もカリキュラムも変わり、より充実した環境となっているようです。私が入学した時は、諸事情で、たしか22名が新入生として入学し、16名と一緒に卒業したと記憶しています。学科の設備も100名以上の学生が学べる環境なのに、20名足らずの学生が利用したわけですから、すばらしく恵まれていました。

授業も選択科目では先生と1対1の授業もあり忘れられない思い出となっています。卒業論文では、恩師の中村輝男先生に大変お世話になりました。実は、卒業論文は提出したのですが、思ったような結果が得られず論文としては失敗でした。当時の先生に厳しく怒られ、「大学は卒業させるが、研究室は卒業させない。」と言われ入社式の前日まで、研究室で論文のやり直しを行っていました。それから十数年後に中村輝男先生直筆の「研究室卒業書」を頂いたことは、私にとって大切な思い出です。

さて卒業後ですが、オイルショック後の昭和49年4月にゼネコン（戸田建設株式会社）に入社し、最初の1年は建築工務部、2年目からはIT部門（情報システム部・後に部長）に37年間、最後の1年は監査室を経験させて頂き、平成25年3月末をもって62才で退職しました。

在職中はITワーク環境も含めどんどん変わって行きます。現在は、パッケージソフトの利用や、クラウドの利用等選択肢



20年前会社にて



原稿の作成中

も多く、会社にとって、何が最良かの判断が難しい時代と考えられます。又、「個人情報保護法」「内部統制：J-SOX」の観点からも「情報漏えい」等セキュリティが企業にとって大きなリスクとなり、リスク管理が課題となっています。その中で、私が心がけたことは、「バランス」です。例えば、システム開発であれば、「機能、費用、工程、品質」のバランスを意識すること、プロジェクトを任された場合、開発の目的は何なのか、一番重要なのは機能、費用、工程、品質（高品質は必須）のどれかを常に意識し全体の「バランス」を心がけました。必要な機能を、与えられた費用、工程内に、高い品質で作成することが重要と考えています。

皆さんも、システム開発だけではなく、いろいろな場面で「バランス」を意識して下さい。尚、現在は趣味のテニスを中心にバランス良く人生を楽しんでいます。

最後に、私にとって、卒業後の39年間と今後の「人生の心の支え」となっている母校に深く感謝致します。



趣味のテニス

OB紹介

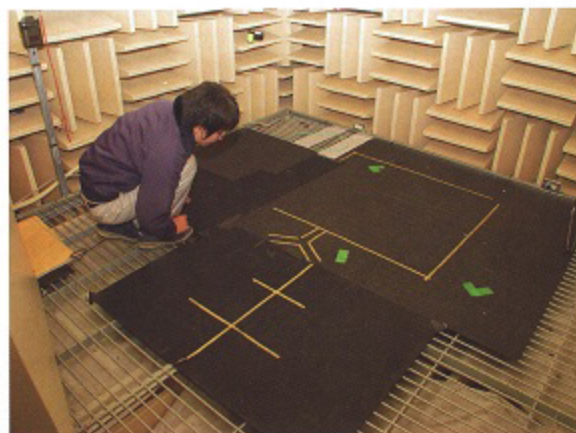
日本特殊塗料(株) 開発本部 廣瀬 茂雄 (数理工学科 平成6年卒業)

学生時代の思い出(学んだこと)

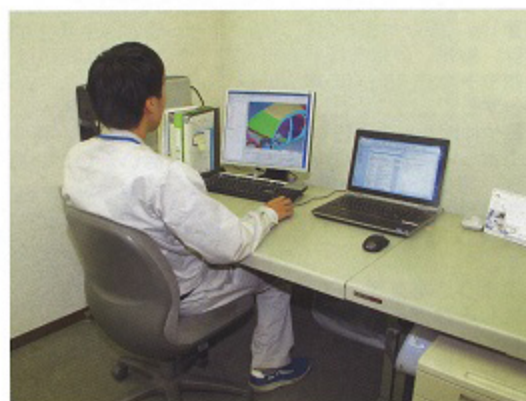
昔、数理工学科のキャッチフレーズに「すべての物理現象は数式で表現できる」と書いてありました。当初は「何？」とその重要さが理解できていませんでした。その重要さを学んだのが柴田研究室でした。当時はコンピュータ分野が発展途上でプログラミングや情報系などのSEを目指す人も多くいました。しかし柴田研は其中でも異例で、その内容といえば「建築振動学」「実験」「予測解析」がキーワード。建築振動学で振動の基礎を徹底的に学びました。さらに研究テーマを通じ実験およびその解析を学びました。時には自ら試験治具を作成し評価したこともありました。解析といえばスマートで格好よく思えますが、注意しなければいけない点は「実現象を知る」ことです。実現象を知らない人に解析は語れません。今だから言えますが双方を知ることに意味があります。その大切さを私は大学の研究室で学びました。

近況

皆さんは車に乗ったとき音がうるさいと感じた時はありますか。エンジンの音、タイヤの音など様々あると思います。それらの音を静かにさせるためには自動車メーカーや部品メーカー含め数多くの技術者が裏で関係していることを知っていますか。我々の仕事は車の音を静かにするための防音材料の開発・供給を行っています。例えば自動車のフロアカーペットは意匠性だけでなく音を低減させるための重要な防音部品の一



部です。これらの防音部品を適用するためには様々な振動・騒音現象を知る必要があります。ここで学生時代に学んだ振動の基礎が生かされております。小さい会社ではありますが、良いこともあります。人がいないためすべてのことを一人で対応することができます。偏った知識では達成は難しく、幅広い知識の習得をすることが必要です。やりたいことは熱意を持てば必ずできる。私がこの会社に入り学んだことです。技術は日々進歩しています。私自身も毎日が勉強です。先は長いですが努力を惜しまず頑張っていきたいと思います。努力した者は必ず報われます。



おわりに

学校での勉強は会社に入って役に立たないとの噂もありますが、私は違うと思っています。物理は嘘をつかない。基礎学習は重要。必ず役に立ちます。なぜなら物事に対する考え方は共通だからです。大きなことと小さなことにかかわらず最後までやりぬくことが重要です。精神論ではありませんが諦めずに強い意志を持って取り組むことが全てにおいて大事なことでありと思っています。

そこでまずは1つでも良いので目標を持ってください。努力すれば必ず達成できる。学生時代に必要なのは、基礎理論を学ぶこと。さらに実験と解析は偏らずどちらも学ぶことです。今一度頭の中を整理し一番重要な学生時代を過ごしてください。

機械工学科

【学生数】学部811名 大学院（修士）76名 大学院（博士）5名

【人事】朝比奈敏勝教授、藤田優准教授、山田正准教授、村田守専任講師が、定年退職されました。永年にわたり教育・研究ならびに、学部・学科運営にご尽力されました。新任教員として澤一機助手が4月に着任されました。

【トピックス】津田沼キャンパス整備計画の一環として、3号館が本年9月までに解体されます。3号館は、本学部が理工学部経営工学科であった1962年に地下1階地上4階の本格的なコンクリート構造の教室棟（D号館）として竣工されました。



1968年当時の3号館



解体工事が開始された3号館

200人以上が収容できる大教室10室に加え、充実した設備の製図室を設置していたことが大きな特長でした。当時、設計製図は本学科の看板科目の一つでした。その後10年間にすでに解体された10号館（F号館）や旧12号館などが竣工され、津田沼キャンパスの整備が急速に進みました。それに伴い、1970年に3号館は研究室機能を担う機械工学科専用棟になり、およそ35年間にわたり学生および教職員と苦楽を共にしてきました。研究室は2006年に現在の12号館に移転し、3号館は卒業研究実験室とレギュラー実験室として使用されてきました。これらの実験室は、現在8号館に移転しています。輝かしい機械工学科の発展とともに歩んだ3号館サヨウナラ、そして、ありがとう。

電気電子工学科

【学生数】学部760名 大学院（前期課程）27名 大学院（後期課程）1名

【トピックス】プロジェクト演習競技会が開かれました。7月23日に電気電子工学科の「プロジェクト演習」の競技会が39号館1階で開かれました。プロジェクト演習は生産工学科の特徴ある授業の一つであり、3年生がグループ毎にロボットの設計、製作、評価を行う演習科目です。学生は実験IからVまでの各実験室に分かれ、実験スタッフの指導を受けます。ロボットを作るための素材はレゴ・マインドストームというプログラム可能なレゴです。学生はテーマから自分たちの制作する製品のコンセプトを考え、それに従って設計し、開発する過程を体験します。前期の途中で2回の発表会があり、教員や仲間からの評価を受け、改善や改良を行い、競技会に臨みました。写真（1）は実験IVのグループです。実験IVではロボットでカーリングをし、得点を競いました。自走可能なロボットでボールを操作して標的（写真左）にボールを置き、置いた位置の得点で勝敗を競うというルールです。

写真（2）は優勝チームの学生です。

このように電気電子工学科では楽しみながらものづくりを知ってもらふカリキュラムを展開し、実践力のある学生を育てております。



実験IVの競技の様子（1）



優勝したチーム（2）

土木工学科

【学生数】学部838名 大学院（修士）23名 大学院（博士）6名

【人事】平成25年度学科運営では工藤勝輝教授が学科主任に、秋葉正一教授が専攻主任に再任されました。また、学部運営では落合実教授が学生担当、澤野利章教授が入試検討委員長及び学務副担当、秋葉正一教授が入試実施委員長に任命されています。また、本年度4月から内田裕貴助手、土木工学科事務室には岡崎希知さんが着任され、教授11名、准教授2名、助教5名、助手2名、事務2名の計22名のスタッフで学生及び院生の指導・支援に尽力しています。

【トピックス】平成25年度の土木学会全国大会（第68回年次学術講演会）は、本学津田沼キャンパスが会場となりました。このため、昨年度から本学科教員、さらに理工学部土木工学科、交通システム工学科の教員が会場校スタッフとして様々な準備・運営業務を分担し、大会当日には約200名の学生及び院生のスタッフとともに大学内外での案内や講演会補助等の直接的な業務にあたりました。今年度の全国大会では「土木が築いた今日と、切り拓くべき未来」をテーマとして、太田昭宏国土交通大臣による基調講演をはじめ、数々の講演会や討論会、地域住民と連携した新たなイベントが企画されました。



生産工学科スポーツ大会
（総合優勝（2連覇！））



土木工学科ポスターコンクール
（初年次ゼミにおける審査会・表彰式）

次年度には土木学会が100周年を迎える記念すべきこの大会に、全国各地から約2万人の土木技術者・研究者の方々や当キャンパスにお集まりいただき、日大土木の団結力をもって盛大に開催することができたのではないかと自負しております。本大会にご尽力いただいた関係者各位、ならびに学生スタッフ、ご来場いただいた皆様に、紙面をおかりして感謝申し上げます。

建築工学科

【学生数】学部834名 大学院 博士前期課程61名 博士後期課程5名

【人事】学科主任に廣田直行教授、専攻主任に塩川博義教授が選任されました。

永年にわたり教育・研究並びに学部の運営にご尽力されました丸田榮蔵教授が定年退職されました。（2013年7月）
新任教員として鎌田貴久助教（木質構造）が4月に着任されました。

建築工学科元教授の福島暁男先生と川村政史先生に日本大学名誉教授の称号が授与されました。（2013年3月）

【トピックス】○平成25年6月1～2日の2日間にわたり、日本人間工学会第54回大会が生産工学部創立60周年記念棟（39号館）で開催され、松井勇教授（生産工学部長）が「建築材料と人間工学—五感に基づく評価—」と題して特別講演を行いました。○平成25年7月5日に、中国科技大学のインテリア系・建築系の学生・教員（総勢50名）が来校しました。建築工学科のボランティア学生と共に、39号館2階食堂でランチ・懇親会及び記念品贈呈が行われた後、グループに分かれてキャンパス内施設、音響実験室・構造実験室・製図室等を見学し、楽しく有意義な交流が行われました。

○平成25年3月に千葉県建築士会等の建築関連4団体が主催する第25回千葉県建築学生賞（6大学16作品）が開催され、橋聡子さんの卒業設計「つむぐーまちと大学のあいだに」が最優秀賞を受賞しました。

※建築工学科の最新情報はホームページをご覧ください。 <http://www.arch.cit.nihon-u.ac.jp>



松井学部長特別講演



「つむぐーまちと大学のあいだに」
橋聡子



中国科技大学 インテリア系・建築系の学生・教員が来校

応用分子化学科

【学生数】学部760名 大学院生（修士）47名 大学院（博士）3名

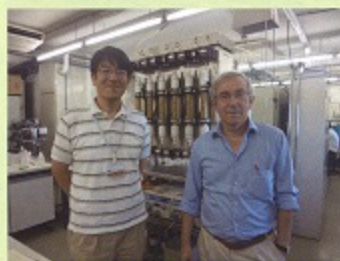
【人事】平成25年度の学科主任は山田和典教授、専攻主任は津野孝教授が任命されました。今年度新任の教員として木村悠二助手（高分子化学）が4月に着任され、山田（和）研究室に所属して学生の教育研究指導に活躍されています。今年度、高橋大輔助手（生物物理化学）が専任講師に、保科貴亮助教（化学工学）が准教授に、中釜達朗准教授（分析化学）が教授にそれぞれ昇格されました。これにより平成25年度4月現在の教員構成は教授11名、研究所教授1名、准教授7名、専任講師2名、助教2名、助手1名で研究室数は15となっています。また平成25年7月に矢木修身研究所教授が定年のため退職されました。長年にわたり本学科の発展に貢献頂き、誠にありがとうございます。引き続きご指導を賜りますようお願いいたします。なお、学科に関する最新の情報はホームページ（<http://www.ic.cit.nihon-u.ac.jp/index.html>）をご覧ください。

【学位取得者】木村悠二（きむらゆうじ）博士（工学）・日本大学大学院生産工学研究科応用分子化学専攻（平成25年3月25日）「酸化還元酵素とキトサンを用いた環境汚染物質の除去」

【トピックス】○学外オリエンテーションとして平成25年4月20日から1泊2日の日程で日本大学軽井沢研究所に宿泊し、春日温泉での手びねり体験により新入生同士や教員との親睦を深めました。○岡田昌樹准教授は、生産工学部長期派遣研究員として平成24年8月より1年間ポルトガル（ポルトガル）ロドリゲス教授の下で、金属有機構造体と呼ばれる吸着材を圧力変動吸着法という分離技術に用い、低級炭化水素を効率的に分離する研究に取り組まれました。○藤井孝宜教授は、日本大学海外派遣研究員（短期B）として平成25年8月より3ヶ月間カリフォルニア大学サンディエゴ校（アメリカ）ペルトランと教授の下で、有機金属触媒に関する研究に取り組まれています。○千葉県総合教育センター主催の科学技術研修（事業番号3462）を応用分子化学科で実施しました。2名の教員による講義や講座（テーマ「高分子材料の原点となる繊維について学ぶ」 柏田歩准教授、「コロステリック液晶を利用した温度計の作成」 田中智准教授）を通じて、千葉県内の公立中学・高等学校で理科を担当されている先生の研修に協力させていただきました。



学外オリエンテーション



ポルトガル出張中の岡田昌樹准教授

マネジメント工学科

【トピックス】平成25年度、マネジメント工学科は新たに「フードマネジメントコース」を開設し、「ビジネスマネジメントコース」「経営システムコース」と合わせて3コース制となりました。

○フードマネジメントコースでは、フードビジネスを視野に入れたマネジメント工学の理論・手法などの考え方をとおして、問題解決策を見出していく方法論を学習します。加えて、実践的な教育によって、企画力、問題解決能力、マネジメント能力を有する人材を育成することを目指しています。フードビジネスを対象とした新コースを加え、マネジメント工学科では、顧客が求める製品やサービスを予測し、それらを安いコストで安全に作る・提供するためにはどうしたらよいかを考え、その過程でいかにムリ、ムダ、ムラを省いて効率性を高めるかを工夫し、それを実現するための最適なシステム(仕組み)を設計し運用するための理論と技術を教育していきます。

○新コースの設置とも関連して教員の充実に努めており、本年4月付けにて、五十部誠一郎教授、三友信夫教授、鈴木邦成准教授、村田康一准教授の4名の教員が着任しました。

フードサービスマネジメント 専門技術者

商品開発、サービス・供給体制の改善から
和食文化のグローバル展開を担う経営者・管理者

流通部門

- フードサービス
- 商品企画開発部門
- 海外、チェーンビジネス



フードマネジメントコースを開設



3コースに移行しました

数理情報工学科

【学生数】学部680名 大学院(修士)43名 大学院(博士)2名

【人事】平成25年度の学科主任は細川利典教授、専攻主任に見坐地一人教授が任命されました。また、3月に亀井光雄准教授が退職されました。永年にわたり数理情報工学科の発展に貢献してくださり、本当にありがとうございました。新教員として、新井雅之助教(ディベンドラブルネットワーク)、高橋亜佑美助手(振動音響解析)が4月に着任されました。

【トピックス】平成24年度後期○10月、松山で開催された情報処理学会の第20回マルチメディア通信と分散処理ワークショップで、関研究室大学院(修士)1年の立川裕隆君が優秀ポスター賞を受賞しました。○11月、ホームカミングデイを実施し、卒業生、退職された先生や事務の方々に集っていただきました。○11月、細川研究室大学院(修士)2年の荻田英実さんと橋明彦君が、国際会議WRTLT(IEEEの主催、新潟で開催)で、それぞれの研究成果を発表しました。○1月、NHKのBSプレミアム「覇王伝説」に古市昌一教授と大学院(博士)1年の倉本健介さんが出演されました。○3月、CG検定の合格率部門と普及振興部門において、数理情報工学科が2012年度の優秀校を受賞しました。○3月、(公社)自動車技術会関東支部大会学術講演会で、見坐地研究室大学院(修士)1年の鈴木雄輔君、4年の龍野俊一君、大学院(博士)3年の高橋亜佑美君、見坐地一人教授がベストペーパー賞を受賞しました。○3月、台湾の中国科技大Computer Science学部と日本大学生産工学部数理情報工学科が、学術交流協定しました。

平成25年度前期○4月、細川研究室大学院(博士)2年の山崎紀史君が、国際会議DDECS(IEEEの主催、チェコ・カルロヴィヴァリで開催)で研究成果を発表しました。○4月、新入生オリエンテーションで、教員20名と新入生161名で茨城県つくばへ行きました。



TSUKUBA-HOTEL-DINNER



HOMECOMING

環境安全工学科

【人事】さらなる教育の充実をはかるため、東京電機大学から武村助教ならびに豊田中央研究所から秋濱教授（10月着任）を迎え入れました。なお、今年度には神野教授、松田教授および町長教授が定年退職されます。

【トピックス】3月に新築の40号館環境安全工学科・創生デザイン学科棟に引っ越しました。40号館の供用で、学科創設以来、初めて全ての学生・教員が一つの建物で教育・研究を行えるようになりました。また3月に第一回学位記等伝達式を行い、第一期生134名が巣立っていきました。4月には第5期生142名を迎え入れ、2年生143名、3年生128名、4年生124名の総勢537名の学生が在籍し、2年生以上が40号館の主に1、2、3、7階を使用しています。1年生も専門デーには各階のコミュニティスペースで勉強しています。40号館7階はほぼ教員研究室と卒研ゼミ室があり学生達の勉学のホームグラウンドとなっています。この7階中央のコミュニティスペースに各教員の研究の一端を紹介して、環境安全工学科



7階コミュニティスペースの研究紹介



3階コミュニティスペースで勉強する学生達

の学問が学際広領域であることを認識できるようにしています。3階および2階は主に卒業研究実験室と学生実験室が設置されています。さらに1階にある環境安全工学科の共通大型実験室には他大学では保有していない、環境総合実験システム（仮称）を導入して、新たな学際的な研究を始める予定です。

創生デザイン学科

【人事】学科主任：平成25年度創生デザイン学科主任として三井和男教授が就任されました。

【トピックス】○川岸梅和教授を代表とする川岸研究室チーム（建築工学専攻D2野田りさ、M1 田村一男・高橋亮裕+創生デザイン学科3年 阿天坊巧・市毛賢・稲葉隼・今井廉・落合祐希・石井かえで+建築工学科 北野幸樹准教授）は、旭市いいおか復興観光まちづくりコンペ（主催：いいおか津波復興プロジェクト）において佳作並びに市民賞を受賞しました（2013年3月3日）。「Community Supported IIOKA～共に生きる・活きる暮らし～」を作品のタイトルとし、東日本大震災の被災地である千葉県旭市飯岡の復興計画案を提案しています。豊かな海との共生を目指し、防災・減災の観点によるフローティング（浮体）ユニット等工学技術的手法と共に、「コミュニティづくり」を基盤に居住者参加型（コーポラティブ方式）の「まちづくり」と「住まいづくり」を柱としたハードとソフトの同時進行形の提案を行っています。○創生デザイン学科3年田中ゆりえさんの作品「The inside」が、AMA主催第17回AMATERAS写真展において秀作入選となりました。



「Community Supported IIOKA～共に生きる・活きる暮らし～」



「The inside」

教養基礎科学系

【人事】学科主任：阿部治教授、3月に英語の須田理恵教授が退任されました。新任教員として、体育の新井健一助教、物理の小林奈央樹助教が着任しています。また、これまでいなかった教職科目の専任教員として山岸竜治准教授が着任されています。

【トピックス】今年度は、カリキュラム改訂1年目で、まず1年生の科目から、新カリキュラムが実施されています。その中で、もっとも大きな変更は「初年次ゼミ」という科目の新設です。この科目は全学科必修科目で、4年間の学びの姿勢を作ることを目的とした科目です。また、学生から見ると1年生のうちに少人数で教員に接する機会を増やす科目です。そのために、専門学科と教養・基礎科学系の区別なく全教員で担当しています。専門科目と教養・基礎科学系科目の枠を取り払うこの科目を実現するにあたり、1年生の授業が津田沼校舎でも多く開講されることとなり、どの学科も週に2日間は津田沼校舎で授業を受けることになりました。曜日によって変動はありますが、実習校舎にいる学生は減り、ゆったりとしたスペースの確保が出来るようになりました。



発表風景



実習校舎N



第90回
記念大会

箱根駅伝



走れ日大! 108万人の仲間と共に



森谷悠平(法学部4年)



田村雄三(工学部4年)



日守聖隆(経済学部4年)

祝! 第90回東京箱根間往復大学駅伝競走 84回目出場!

日本大学校友会
スポーツ振興特別委員会
<http://www.nichidai-sports.jp>
箱根駅伝応援サイト
<http://www.nichidai-ekiden.jp>

【日本大学保健体育審議会 所属競技部全31部】

陸上競技部	弓道部	体操部	スケート部	アメリカンフットボール部
水泳部	卓球部	射撃部	バスケットボール部	フェンシング部
野球部	馬術部	重量挙げ部	バレーボール部	ゴルフ部
ボート部	自転車部	ラグビー部	レスリング部	バドミントン部
柔道部	テニス部	ボクシング部	サッカー部	ハンドボール部
剣道部	空手部	スキー部	ヨット部	応援リーダー部

寄付のお願い

口座番号 00190-7-585685 日本大学校友会スポーツ振興特別委員会

日本大学生産工学部校友会誌「桜生工」

発行：日本大学生産工学部校友会
住所：千葉県習志野市泉町1-2-1
TEL：047-476-1140
FAX：047-476-3510
HOMEPAGE：<http://www.asahi-net.or.jp/~wa3k-kkt/index.html>
E-MAIL：wa3k-kkt@asahi-net.or.jp

印刷：株式会社 東工
住所：東京都北区赤羽北2-2-12
TEL：03-5963-5702
FAX：03-5963-5704
編集：日本大学生産工学部
校友会広報委員会